

PeeR(ピア)は「同等の人、仲間」という意味です。日本高等教育評価機構の認証評価は、大学の教職員による評価「ピア・レビュー」を基本精神としています。「P」と「R」を浮かび上がらせることで、当機構からの PR(広報)という意味も込めました。

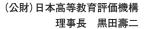
公益財団法人 日本高等教育評価機構

Vol. 7

### 巻頭言

### 就任のご挨拶

# 適合認定を公正に実施し、個性、特色を育む 評価手法の改善を進めます





我が国は世界で活躍できる「21世紀型市民」の育成を目指して、高等教育機関に知識偏重から自ら考え行動する学生の育成を求めています。大学院教育に対しては教育の実質化に向けて大学院教育振興施策要綱を策定しました。また、学部教育に対しては学士課程教育の質的転換の方策を発表して、機能分化の促進と個性・特色の明確化、地域活性化への役割等とともに個々の大学がどのような人材を養成し、その成果として「学生は何ができるようになるか」などを明確に示すことを求めています。

いずれも、学生が自ら生涯にわたり学び続ける 積極性の育成を目指すものであります。これらの 方針を受けて、各高等教育機関は教育課程や教育 方法で特色ある改革を推し進めています。

他方、多様化し重層化する大学の実情を広く社会に示し理解を得るための教育情報の公表や財務情報の公開が義務付けられ、自己点検・評価の義務化も規定されています。

この様な教育環境の変化に伴って、認証評価機 関にはより一層の公益性、公平・公正及び透明性 が求められています。

日本高等教育評価機構は、公益法人改革関連法

に基づき、国の大きな期待のもと内閣総理大臣から公益財団法人の認定を受け、平成24(2012)年4月1日に新たな出発をいたしました。

我が国の高等教育の発展に重要な任務を担う本 機構の理事長を、この度私が拝命することとなり ました。もとより微力ゆえに身の引き締まる思い でありますが、最善を尽くして重責を果たす所存 でございます。

機関別評価は、国の定める7年以内ごとに一度の最初のサイクルが終わりました。前理事長が示された評価方針を踏襲しつつ、認証評価制度の原点である機関別評価においては設置基準などとの適合認定(Accreditation)を公正に実施すると同時に各大学の個性・特色・特性を把握する評価(Evaluation)では自己点検・評価を中心とするPDCAサイクルを検証するなど、各大学の規模や多様性に十分対応できるように評価手法の改善をも進めたいと考えます。

会員大学はもちろん、評価対象大学の改善・改革にいささかでも貢献できる機構を目指して会員相互のご協力とご理解を得ながら運営していきたいと考えています。今後とも引き続きご支援、ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

#### CONTENTS

巻頭言▶就任のご挨拶・・・・・・・・・・	٠	٠	•
報告▶平成 23(2011)、24(2012)年度 評価結果			2.3
インタビュー▶新評価システムを経験して・・・	٠	٠	
STUDY・評価システム 評価方法の変更・・			
Q&A ▶次年度以降の評価を受けるにあたって	٠	٠	. (

データ▶自己点検・評価の頻度	•	٠	٠	٠	٠	•	٠	٠	٠	٠	6
平成 24(2012)年度事業計画		•	•	•		•	•	•	•		7
From JIHEE $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$	٠	٠	٠	٠	٠	٠	٠	٠	٠	٠	7
役員等名簿 & 会員校一覧・・・		•	•		•	•	•	•			8

## 報告 平成 23 (2011)、24 (2012) 年度(第 1 回) 評価結果

### 13 大学の認証評価と 4 大学の試行評価活用型認証評価を実施

昨年度は、大学機関別認証評価に加えて、新評価システムのための試行評価も行われました。認証評価では、改善への指摘はあったものの 13 大学すべてが「認定」となりました。試行評価は平成 24 年度大学機関別認証評価に切り替えられ、4 大学すべてが「適合」と判定されました。

#### 1. 平成 23(2011)年度 認証評価、再評価

平成23(2011)年度の大学機関別認証評価は13大学の申請があり、評価の結果、すべて「認定」と判定されました。このうち、5大学に対しては指定された期日までに「改善報告書」を提出することが条件として付されました(表1を参照)。

同年度は、認証評価制度の導入後に開設された大学が多く申請しました。平成17(2005)年度開設が5大学、18(2006)年度が4大学、19(2007)年度が1大学です。そのため、基準7「管理運営」において、今回の認証評価までに大学独自の自己点検・評価を行っていないなど、「自己点検・評価の体制が整っていない」という指摘をされた大学が複数あったことが特徴の一つです。条件が付された5大学のうち、3大学に自己点検・評価について改善報告が求められています。

また、避難訓練の未実施や災害時の対応マニュ アルの未整備など、危機管理への言及も多く、5 大学が「参考意見」として指摘されました。

なお、日本女子体育大学は、当機構としては初 めて2度目の認証評価の実施となりました。

再評価には3大学が申請しました。書面調査、 実地調査、評価員会議、大学評価判定委員会など 認証評価と同様の評価プロセスを経て、すべて「認 定」と判定されました。これらの大学には、認証 評価実施年度にさかのぼって認定期間(7年間) が設定されます。

再評価は、平成 26 (2014) 年までの今後 3 年間で、さらに 12 校の申請が見込まれています。これからの再評価は、すべて平成 23 (2011) 年度の評価システムのもとで行われます。

また、認証評価の結果に基づいた「改善報告書」 は10大学から提出がありました。改善報告等審 査会での審議を経て、7大学が「改善が認められ

#### 表 1 評価結果の概要

#### 平成 23(2011)年度

#### ●認証評価で「認定」とした大学 ▶ 13 大学

※☆は条件を付した大学 5大学
☆秋田看護福祉大学/大阪青山大学/大阪河崎リハビリテーション大学/大阪総合保育大学/沖縄国際大学/岐阜医療科学大学/☆群馬パース大学/☆神戸情報大学院大学/☆聖マリア学院大学/東京聖栄大学/☆西九州大学/日本女子体育大学/山口学芸大学

#### ●再評価で「認定」とした大学 ▶ 3 大学

※( )内は認証評価受審年度(以下同) 甲子園大学(平成 21(2009)年度)/第一工業大学(平成 20(2008)年度)/ノースアジア大学(平成 21(2009)年 度)

#### ●改善報告書等の審査により

#### 「改善が認められた」とした大学 ▶ 7 大学

旭川大学(平成 21(2009)年度)/大阪工業大学(平成 21(2009)年度)/摂南大学(平成 21(2009)年度)/帝塚山学院大学(平成 22(2010)年度)/名古屋文理大学(平成 21(2009)年度)/人間環境大学(平成 20(2008)年度)/平成音楽大学(平成 21(2009)年度)

#### ●改善報告書等の審査により

#### 「概ね改善が認められた」とした大学 ▶ 3 大学

大阪樟蔭女子大学(平成 21(2009)年度)/久留米工業大学(平成 20(2008)年度)/女子栄養大学(平成 20(2008)年度)

#### 平成24(2012)年度(第1回)

#### ●認証評価で「適合」とした大学 ▶ 4 大学

桜美林大学/金沢工業大学/神田外語大学/文化学園大学

た」、3大学が「概ね改善が認められた」という 結果になりました。改善報告の内容は、予算や決 算などの審議方法についてのものが最も多く、 10大学中7大学でした。

# 平成 23(2011)年度 試行評価、 24(2012)年度 認証評価

平成24(2012)年度から新しい評価システムを 採用するため、昨年度は大学機関別評価(試行) が4大学で行われました。 この試行評価は、評価チームの「調査報告書案」 取りまとめまでとし、その後、平成24年度大学 機関別認証評価へ切り替えられ、審議の後、4大 学すべてを「適合」とするとの評価結果が出され ました(表1、2を参照)。

新しい評価基準は、従来の11 基準から4 基準に整理・統合され、基準2「学修と教授」の評価範囲がほかの基準より広くなりました。4 大学で27 の「優れた点」がありましたが、うち18 が基準2 に対するものになっています。

試行評価は、大学・担当評価員双方へのアンケートや意見交換会を行いながら進められました。4 大学は、すべて当機構で2度目の評価であり、また評価チームを構成する担当評価員も、評価経験のある20人が選任され、従来のシステムとの比較を含めた貴重な意見が多く寄せられました。これらの意見は、評価システム改善検討委員会と大学評価判定委員会で審議され、新評価システムへ反映されました。

平成 24 年度大学機関別認証評価は、今後、通 常のスケジュールでも実施されます。すでに 14 大学(再評価5大学を含む)が申請を行っており、 6月中に自己点検評価書などが提出されています。

表2 試行評価から認証評価結果確定までの流れ

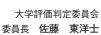
年 月	実施事項	
平成 23 (2011) 4月	平成 23年度大学機関別評価(試行)への協力依頼 受審承諾書を受理	
9月	自己点検・評価報告書を受理	
10月~	第 1 回評価員会議の開催	
11月~	実地調査の実施(第2、3、4回評価員会 議の開催)	
12月	第 5 回評価員会議の開催 「調査報告書案」の取りまとめ(評価チーム)	
平成 24 (2012) 2 月	平成 24 年度大学機関別認証評価の申請 案内	
3月	平成 24 年度大学機関別認証評価の申請 書受理 (試行評価から認証評価に切り替え)	
4月	自己点検評価書を受理 大学評価基準の変更部分の追加評価作業	
5月	大学から「調査報告書案」への意見申立てを受理 第1回大学評価判定委員会の開催 大学から「評価報告書案」への意見申立てを受理	
6月	理事会の開催(評価結果報告書の承認)	

## 新評価システムを実施して

#### 平成 24(2012)年度は認証評価を 2 度実施

今年度は、イレギュラーな形ではありますが、新評価システムのもと認証評価を2度実施することになりました。まず、昨年度、試行評価にご協力いただいた4大学については、その結果を活用した認証評価に切り替え、最終的な評価結果を6月に公表しました。次は、来年3月に14大学(再評価5大学を含む)の評価結果を確定し、公表します。

新評価システムでは、認証評価を受けるための自己点検・評価であっても、各大学が本来行うべき自主的かつ恒常的な自己点検・評価と同じ要件を備えるものとすべく、工夫しました。また、認証評価及び自己点検・評価の効率性を高め、大学の機能別分化の促進と個性・特色の重視という観点から、基準を4つの基本的・





共通的事項に精選するとともに、それ以外に大 学独自の基準を追加設定できるようにしまし た。

今年度最初の4大学の評価を実施して、各大学が根拠資料をもとに独自の自己評価を行い、評価員がその内容を検証する形となり、より客観性と効率性が高まったと感じております。

各大学が、改善・改革を繰り返す中で、大学自身で法令等の遵守状況を確認し、個性や特色を発揮するために、大学がPDCAサイクルを内包した自律的な内部質保証システムを確立し、効果的に機能できるよう、これからも支援していきたいと思います。

### インタビュー新評価システムを経験して

試行評価でご協力をいただいた自己評価担当者と担当評価員に、新評価システムの感想を伺いました。 エビデンスの提示や大学独自の基準設定などの新しい仕組みはうまく機能したようです。

※評価員の守秘義務の規程上、吉田評価員の担当大学名は掲載しません。

#### 自己評価扣当者 ----



### 日常的な自己点検・ 評価活動が重要です

文化学園大学 服装学部教授 佐藤 眞知子氏

### 一自己点検評価書作成にあたり、難しかった基準 はどこですか

大変だったのは、基準2「学修と教授」です。 基準項目数が多く、どこまで絞り込んで記述すれ ばよいか悩みました。学部ごとに原稿作成を振り 分けたのですが、全学共通の取り組みについては どの学部でも記述してくるので、その調整には手 間取りました。

#### ーエビデンスの提示についてはいかがでしたか

本学では毎年「自己点検・評価報告書」を作成 して、学内の部署・委員会などの課題、取り組み 結果などはまとめていました。エビデンスについ ても、その中から必要なものを取り出せばよいの で、当初考えていたほど大変だったという感覚は ありません。また、エビデンスを示すことにより 記述部分は簡略化できるため、とても有効であっ たと捉えています。

#### 一大学独自の基準設定はどうでしたか

試行評価を受けるにあたり設置した「認証評価 推進委員会」で決定しました。はじめは6つほ どのキーワードがあがったのですが、それを基準、 基準項目、評価の視点に当てはめ、重複したもの は省いて、最終的には2つの基準にまとめました。

はじめのうちはどう進めればよいのかわからな かったのですが、大学の個性・特色を PDCA サ イクルの一つとして捉えればよいのだとわかって からは、作業が進めやすくなりました。

#### 一これから受ける大学にアドバイスをお願いします

日常的な自己点検・評価活動が重要だと思いま す。大学の使命・目的について日頃から検証づけ るようにしていればよいと考えます。

#### 担当評価員



### エビデンスでは大学の見解を 知ることを重視しました

愛知産業大学 経営学部教授 吉田 修氏

#### 一基準数の変更をどう思われましたか

全体像や基準同士のつながりがわかりやすくな りました。例えば、教学に関係する基準は、旧基 準では5つに分けられていましたが、新基準では、 基準2で1つにまとめられていて、また、それ が実際の教育活動の流れに沿っていますので、評 価しやすくなりました。

#### 一大学が自己判定をする仕組みはどうでしたか

評価活動がより具体的、より明確になったと思 います。旧基準では評価員は根拠を「探す」必要 がありましたが、新基準ではその必要がなくなり ましたので、書面調査の負担が軽くなりました。

#### ーエビデンスについてお気づきの点はありましたか

私が担当した大学の場合では、成績の良い学生 に対して CAP 制の特例措置があったのですが、 面談でその理由を聞くことで学修の質に対する大 学の見解を知ることができました。提出された資 料を読むだけでなく、大学と解釈のすり合わせと いいますか、意見交換が重要だと思いました。

#### ―大学独自の基準をどうお考えになりましたか

基準1と4との関わりが重要だと思いました。 大学は基準1で大学の使命・目的などについて 評価して、教育活動と大学運営については基準2 と3で評価します。基準4は、それらの活動全 体を大学自身が自己点検・評価していることを記 述するので、ある意味、特殊な基準です。

つまり、大学独自の基準は、そのサイクルに則っ て設定する必要が出てくるので、大学が評価機構 の新システムをどのように読み込んだのか、その 結果が出てくる基準ではないかと思いました。

## STUDY

### 評価方法の変更

評価システム

新評価システムでは、大学は自己点検・評価を行い、現状を分析し「基準項目」の適合状況について「自己判定」を行います。また、評価機構は従来の「基準」に対する評価に加え「基準項目」の評価を行うなど、「評価方法」にはさまざまな改訂がありました。 今回は、この「評価方法」の変更点について説明します。

#### ◆ 大学の「自己判定」が前提

定」をすることです。大学は、4つある「基準」を評価する上で求められる22の「基準項目」に加えて、大学が使命・目的に基づいて独自に設定した「基準」の「基準項目」ごとに「満たしている」「満たしていない」の「自己判定」をします。 従来のシステムでは、大学の自己点検・評価は認証評価のために手段化する傾向があるなど、本来の自己点検・評価の意味が薄れつつあるのではないかという問題がありました。大学が自己評価だけではなく判定を行い、評価機構がその内容を検証するという流れを整備することで、自己点検・評価の実質化を図っています。これまでの「自己評価報告書」という名称が「自己点検評価書」に変更されたのも、この考え方によります。

新評価システムの特徴の一つは大学が「自己判

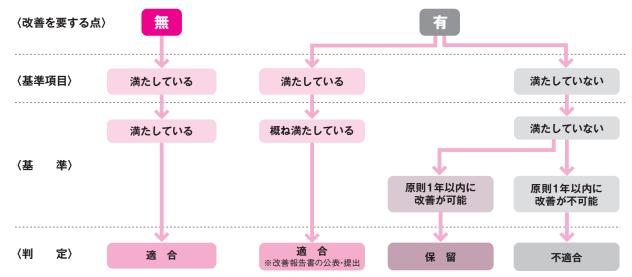
#### ◆「改善を要する点」の有無で結果に違い

評価機構の評価・判定は、まず、「基準項目」 ごとに「満たしている」「満たしていない」の評 価を行います。「基準項目」の評価結果と「改善 を要する点」を勘案して「基準」の評価が決まります。例えば、「基準2」は9つの「基準項目」全てが「満たしている」と評価され、かつ公表される「改善を要する点」がない場合は、「基準2」を「満たしている」となります。ただし、全て「満たしている」が、公表される「改善を要する点」があると「基準2」の評価は「概ね満たしている」となります。また、「満たしていない」と評価された「基準項目」があれば、「基準2」を「満たしていない」となります。

4つの「基準」全てを「満たしている」又は「概 ね満たしている」場合は「適合」と判定されます。 「満たしていない」基準がある場合、判定はその 内容によって違い、原則 1 年以内に改善が可能 であると判断された場合は「保留」、不可能であると判断された場合などは「不適合」の判定となります。また、「適合」でも公表される「改善を要する点」がある場合は、指定期限内での改善報告書の公表及び提出を求めます(下の図を参照)。

なお、大学が使命・目的に基づいて独自に設定 した「基準」に関しては、「概評」を記述し、「満た している」「満たしていない」の判断は行いません。

#### ■ 判定までの流れ



5

### Q&A 次年度以降の評価を受けるにあたって

新しい評価システムが公表されました。次回の評価に向けて準備を始めている大学の参考になるよう、 平成 24(2012) 年 1 月開催の「新評価システム説明会」などで挙がった質問を紹介します。

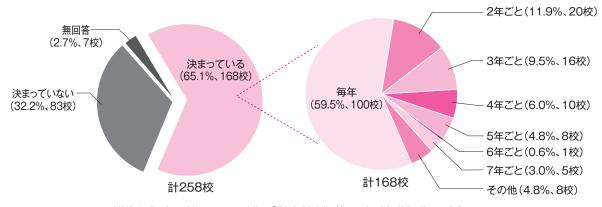
- ◎前回の評価を受けた際の結果とはどう関連づければよいでしょうか。
- A これまでの大学の主体的な自己点検・評価の 実施状況によって異なりますが、基準項目 4-3 「自己点検・評価の有効性」において、自己点検・ 評価で改善してきた内容について、大学の判断 によりその経緯も含めて記述していただくこと は可能です。
- ◎なぜ認定期間が廃止されたのでしょうか。
- A認定期間とは、法定上の年数を示したものですが、質保証期間と誤解を招く可能性があるため廃止しました。
- A 大学が使命・目的に掲げ、個性・特色として重視している領域が、4つの基準の中に全て含まれていれば設定しなくても結構ですが、それ以外

- の内容がある場合は設定することが求められま す。
- ◎短大と大学を同年度に受ける場合、重複する 部分も、自己点検評価書に書く必要があるので しょうか。
- A同法人の大学・短大の重複する部分は、同じ 内容でも結構ですので、それぞれに記載してく ださい。
- ◎次に認証評価を受ける時期については、どのように考えたらよいでしょうか。
- A前回受けた年度の翌年度から起算して7年以内に受ける必要がありますので、大学ごとに2回目の受ける時期は異なります。例えば、平成22(2010)年に受けた場合、次回は平成29(2017)年までであればいつでも受けることができます。

### データ 自己点検・評価の頻度

■グラフ 1 自己点検・評価を何年ごとに実施するか 決まっていますか

#### ■グラフ2 自己点検・評価は何年ごとの実施ですか (グラフ1で「決まっている」と回答の168校対象)



当機構が平成23(2011)年10月~11月に実施した「過年度受審大学に対する調査研究」の結果に基づいて作成。 平成22(2010)年までに当機構で認証評価を受けた272校のうち258校が回答。

当機構の行った調査によると、自己点検・評価を何年ごとに実施するかについて、「決まっている」と回答した大学は258校のうち168校(65.1%)でした。また、「決まっている」と回答した大学のうち「毎年」と回答した大学が168大学中100校(59.5%)でした。

これを地域別で比較すると、「毎年」との回答 率が最も高いのは関東地方で49.3%(34/69校)、 次いで中国地方が47.6%(10/21校)となりまし た。一方、最も低いのは、東海地方で 13.5% (5/37 校)でした。また、東海地方は「決まっている」 との回答率も最も低い 35.1% (13/37 校) となっています。

収容定員別(1,000人以下、1,000~2,000人、2,000~3,000人、3,000人以上)では、「毎年」との回答率が最も高いのは1,000~2,000人で96校中44校の45.8%、最も低いのは2,000~3,000人で30.0%(9/30校)でした。

### 平成 24 (2012) 年度 事業計画

#### 1. 評価事業

平成 24(2012)年度は、新評価システムのもと、 認証評価13校(うち試行評価からの切り換え4校)、 再評価5校の評価を実施します。9月には平成 25(2013)年度の評価申請(大学・短大)を受付けしま す。

#### 2. 評価員の養成事業

評価員が不足する分野について必要に応じて募 集し研修を実施した上で委嘱します。

#### 3. 大学評価に関する調査・研究

以下の6つの調査・研究を行います。

- ①新評価システムの適応状況の検証及び修正
- ②評価員に対する望ましい研修・養成のあり方の

調査・研究

- ③既受審大学の評価に関する調査研究(当該結果は 会員大学等へ情報としてフィードバック)
- ④学修成果(ラーニング・アウトカムズ)に対する評 価の国内外の大学の実情の調査研究と評価基準 への反映
- ⑤専門職大学院認証評価の新分野実施へ向けた調
- ⑥高等教育の質保証に関わる国際的な機関等への 加盟と国際会議への参加などの海外調査

#### 4. 大学評価に関する広報及び啓発活動

広報誌の刊行、メールマガジンの配信、英文ホー ムページの充実など情報発信を強化します。

From JIHEE JIHEEからの連絡・報告などを掲載するコーナーです。

#### 平成 23(2011)年度活動報告

●認証評価の実地調査等 平成 23(2011) 年 7 月~平成 24(2012) 年 3 月 16 大学(再評価 3 大学含む)

●試行評価の実施 平成 23(2011) 年 10 月~平成 24(2012) 年 2 月

●セミナー・協議会の開催

「認証評価担当評価員セミナー」6月1日(東京) 「大学・短期大学評価セミナー」6月7日(東京) 「認証評価団長セミナー」6月22日(東京) 「評価充実協議会」7月4日(東京)

「試行評価版担当評価員セミナー」9月22日(東京) 「新評価システム説明会」平成 24(2012)年1月 19日(東京)、1月23日(名古屋)、1月24 日(福岡)、1月30日(札幌)

#### ●海外機関に対する調査研究

「南部地区基準協会(アメリカ)及び同協会所属大 学の視察」7月10~16日

#### お知らせ 一

4 大学

#### ●公益法人へ移行

平成 24(2012) 年 3 月 22 日付で、内閣総理大 臣より公益財団法人として認定され、4月1日か ら新体制が発足しました。

#### ●過年度受審大学に対する調査研究

平成 22(2010) 年度までに当機構において評価 を受けた272大学に対してアンケート調査等を 行い、この度、報告書をとりまとめました。ご協 力ありがとうございました。報告書は7月に会 員校に送付し、ホームページでも公表する予定で す。

#### ●評価員登録に関する各種様式

評価員・評価員候補者の登録変更届などの各種

様式を当機構のホームページに掲載しました。職 名や連絡先などの登録内容を変更する際はダウン ロードしていただき、お手続きをお願いします。

#### ●国際評価機関等の会員になりました

INQAAHE (International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education:高等 教育質保証機関国際ネットワーク)及びIAUP

(International Association of University Presidents:世界 大学学長会議) の正会 員として入会しまし た。



#### PeeR(ピア) 第7号

平成 24 (2012)年 7 月 10 日発行

編集人 石井正彦

発 行 公益財団法人 日本高等教育評価機構

所在地 〒102-0073

東京都千代田区九段北4-2-11 第2星光ビル2階

TEL: 03-5211-5131 FAX: 03-5211-5132

URL: http://www.jihee.or.jp/

「PeeR (ピア)」に関するご意見・ ご感想はこちらへお客せください hyoukakikou@jihee.or.jp (件名を「ピア」としてください)



左右に配置された流線は<地 球>と、両手で作る<輪>を イメージしています。大学と 社会を結ぶ機構でありたいと の想いを込めました。また、 カラーは高等教育発展にかけ る情熱を表しました。

### 役員等名簿&会員校一覧

(平成24(2012)年6月現在)

#### 役員等名簿・・・・・・

●理 事 (18 人)

〈理事長〉

黒田 壽二 (学) 金沢工業大学学園長·総長

〈副理事長〉

髙倉 到 筑波大学·明海大学名誉教授, 明海大学前学長

〈常務理事〉

石井 下彦 (公財)日本高等教育評価機構事務局長

〈理 事〉

青木 二郎 内幸町総合法律事務所弁護士

(学)文化学園理事長、文化学園大学学長 大沼

木村 正裕 徳島文理大学教授・参事

能岡 洋一千葉商科大学政策情報学部教授

小出 秀文 日本私立大学協会事務局長

後藤 淳 (学)名古屋雷気学園理事長・総長

佐藤東洋士 (学)桜美林学園理事長、桜美林大学総長

. . . . . . . . . . 白澤 宏規(学)桑沢学園常務理事

一 明 (学)東北薬科大学理事長、東北薬科大学学長

安士 (学)金城学院名誉理事長

中村 量一(学)中村学園理事長・学園長

西川 博史 北海商科大学大学院研究科長

野田記一郎 (学)近畿大学顧問·名誉教授 堀川 徹志 京都外国語大学副理事長

渡邉 和親 崇城大学法人局長

●監 事 (2 人)

恋蔝 力夫 永和監査法人代表社員

遠山 耕平 東京国立博物館運営協力会常務理事、平成国際大学前学長

●評議員(18人)

石田 恒夫 (学)石田学園理事長

岡本輝代志 岡山商科大学学長補佐・経営学部教授

香川 達雄 (学)香川栄養学園理事長

北村 憲司 福岡歯科大学学長

小出 忠孝(学)愛知学院学院長

文彦 大阪歯科大学常務理事・副学長

農田 寬三 別府大学学長

野原 明 教育ジャーナリスト

濱 健男 (学)桜美林学園学園事務局長

溶田 勝宏 文化学園大学理事·副学長

直敬 (学)武蔵野音楽学園理事長、武蔵野音楽大学学長 福井

藤田 成降 八戸工業大学学長

真― (学)京都外国語大学理事長・総長 森田

森本 正夫 (学)北海学園理事長、北海商科大学学長

山下 興亜 中部大学学長

吉井 定信(学)谷岡学園監査室長

吉杰 成香 東京理科大学理事·工学部教授

六鹿 正治 (株)日本設計代表取締役社長

#### 会員校・・・・・・・・・・・

〈大学 315 大学〉

●北海道

旭川大学

札.幌大谷大学

札.幌国際大学 星槎大学

千歳科学技術大学

道都大学

函館大学

北翔大学

北星学園大学 北海学園大学

北海商科大学

北海道医療大学

北海道工業大学

北海道情報大学 北海道薬科大学

酪農学園大学

●青森県

青森中央学院大学 東北女子大学

八戸大学

八戸工業大学

弘前医療福祉大学 ●岩手県

富十大学

盛岡大学 ●宮城県

尚絅学院大学 仙台大学

東北工業大学

東北生活文化大学

東北文化学園大学 東北薬科大学

●秋田県

秋田看護福祉大学 ノースアジア大学

●山形県

東北芸術工科大学 東北公益文科大学

●福島県

いわき明星大学 郡山女子大学

東日本国際大学 福島学院大学

●茨城県

筑波学院大学

●栃木県

足利工業大学 国際医療福祉大学

作新学院大学 ●群馬県

関東学園大学

共愛学園前橋国際大学 帝京平成大学 群馬医療福祉大学

群馬パース大学 高崎商科大学

●埼玉県 浦和大学

共栄大学 埼玉医科大学

埼玉学園大学

十文字学園女子大学 尚美学園大学 女子栄養大学

駿河台大学

西武文理大学 東邦音楽大学

日本工業大学 日本薬科大学 人間総合科学大学

平成国際大学 武蔵野学院大学

明海大学

ものつくり大学

●千葉県 愛国学園大学

植草学園大学 江戸川大学 川村学園女子大学

神田外語大学

三育学院大学 秀明大学 聖徳大学

清和大学 千葉科学大学 千葉経済大学

千葉工業大学 千葉商科大学 東京成徳大学

日本橋学館大学 麗澤大学 ●東京都

F 野学園大学 桜美林大学 大妻女子大学 嘉悦大学

北里大学 国立音楽大学

国士舘大学 昭和大学 杉野服飾大学 高千穂大学

多摩大学 帝京大学 帝京科学大学

東京音楽大学

東京家政学院大学 東京工科大学 東京工芸大学

東京女学館大学 東京女子体育大学

東京聖栄大学 東京造形大学 東京電機大学

東京富十大学 東京未来大学

桐朋学園大学 日本医科大学 日本歯科大学

日本女子体育大学 日本体育大学

文化学園大学

大学

目白大学

鎌倉女子大学

产業能率大学 松蔭大学 昭和音楽大学 洗足学園音楽大学 田園調布学園大学

●新潟県

新潟青陵大学

●石川県 金沢学院大学 金城大学 北陸大学

北陸学院大学

東京純心女子大学 仁愛大学

東京福祉大学

東京理科大学

日本獣医生命科学大学

日本文化大学

文化ファッション大学院

武蔵野音楽大学

●神奈川県 神奈川工科大学

日本映画大学

八洲学園大学 横浜商科大学 横浜創英大学

長岡大学 長岡造形大学 新潟医療福祉大学 新潟経営大学 新潟国際情報大学

●富山県 高岡法科大学 桐朋学園大学院大学

富山国際大学 金沢工業大学 金沢星稜大学

●福井県

福井工業大学

●山梨県 健康科学大学 山梨学院大学

●長野県 諏訪東京理科大学

長野大学 松本大学 松本歯科大学

●岐阜県 朝日大学 岐阜経済大学 岐阜女子大学 中京学院大学

東海学院大学 ●静岡県

静岡英和学院大学 静岡産業大学 静岡福祉大学 静岡理工科大学

浜松大学

●愛知県 愛知学院大学 受知学息大学 愛知工科大学 愛知工業大学 愛知産業大学 愛知淑徳大学 愛知東邦大学 愛知みずほ大学 桜花学園大学 金城学院大学 修文大学

椙山女学園大学 星城大学 大同大学 中部大学 東海学園大学 同朋大学 豊橋創造大学 名古屋音楽大学

名古屋外国語大学

名古屋学芸大学

名古屋経済大学

名古屋芸術大学

名古屋産業大学

名古屋女子大学 名古屋告形大学 名古屋文理大学 日本福祉大学 人間環境大学 名城大学 ■=重 鈴鹿医療科学大学

名古屋商科大学

鈴鹿国際大学 四日市大学 四日市看護医療大学

●滋智里 成安造形大学 聖泉大学 びわこ学院大学

びわこ成蹊スポーツ大学 神戸芸術工科大学 ●京都府 京都外国語大学 京都嵯峨芸術大学

京都情報大学院大学 京都造形芸術大学 種智院大学 花園大学 佛教大学

平安女学院大学 明治国際医療大学 ●大阪府 大阪青山大学

大阪大谷大学 大阪音楽大学 大阪河崎リハビリテー ション大学 大阪観光大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪芸術大学 大阪工業大学 大阪国際大学 大阪歯科大学 大阪樟蔭女子大学

大阪商業大学 大阪成蹊大学 大阪休育大学 大阪電気通信大学 大阪人間科学大学 大阪保健医療大学 関西医療大学 関西外国語大学 関西福祉科学大学 四條畷学園大学 四天王寺大学

摂南大学

千里金蘭大学 太成学院大学 帝塚山学院大学 常磐会学園大学 梅花女子大学 羽衣国際大学 東大阪大学 プール学院大学

森ノ宮医療大学 ●兵庫県 芦屋大学 大手前大学 関西国際大学

関西福祉大学 甲子園大学 甲南女子大学 神戸国際大学

神戸山手大学 宝塚大学 兵庫大学 ●奈良県

奈良大学 奈良産業大学 ●岡山県 岡山学院大学 岡山商科大学

岡山理科大学 **倉敷芸術科学大学** くらしき作陽大学 山陽学園大学 中国学園大学

美作大学 ●広島県 エリザベト音楽大学 比治山大学 広島経済大学 広島工業大学 広島国際大学 広島国際学院大学 広島文化学園大学 広島文教女子大学

●山□県 宇部フロンティア大学

東亜大学 徳山大学 梅光学院大学 山口東京理科大学 山口福祉文化大学

徳島文理大学 ●香川県 四国学院大学

●徳島県

高松大学

●愛媛県 松山東雲女子大学

●福岡県 九州栄養福祉大学

九州共立大学 九州国際大学 九州情報大学 久留米工業大学

西南女学院大学 聖マリア学院大学 筑紫女学園大学

福岡工業大学 福岡国際大学 福岡歯科大学 ●佐賀県

西九州大学 ●長崎県 長崎ウエスレヤン大学

長崎国際大学 長崎総合科学大学 ●能本県

九州看護福祉大学 熊本保健科学大学 尚絅大学

平成音楽大学 ●大分県 日本文理大学

崇城大学

別府大学

●宮崎県 南九州大学 宮崎国際大学

宮崎産業経営大学 ●鹿児島県 鹿児皇国際大学 鹿児島純心女子大学 志學館大学

第一工業大学 ●沖縄県 沖縄キリスト教学院大学 沖縄国際大学 名桜大学

〈短期大学 2大学〉 ●大阪府

大阪音楽大学短期大学部 ●福岡県 中村学園大学短期大学部